

シンポジウム

東日本大震災4カ月…被災から復興へ！

障がい児者と共に生きる

市民によるまちづくりの始動

東日本大震災は、太平洋岸の東北・北関東を中心に甚大な被害を及ぼしています。なかでも「震災弱者」と呼ばれる障害者や高齢者は、深刻な状況に置かれているのではないかと思います。大阪にいる私たちになにができる、なにをなすべきなのでしょう。また、関西が大きな震災に見舞われたときのために東日本の経験から学ぶことができることはないのかという問題意識から、宮城県気仙沼市で発達障がい児者への支援を行っているNPO法人の代表をお招きして、以下のようにシンポジウムを開催することにしました。お忙しいとは思いますが、ぜひ、ご参加ください。なお、このシンポジウムは、大阪市立大学大学院創造都市研究科都市共生社会研究分野の入試広報の一環として実施するため、プログラム終了後、簡単な入試説明会を行わせていただきます。

☆ 日時 ☆
2011年7月11日(月)
午後6時半から9時

☆ 場所 ☆
大阪市立大学
文化交流センター
大阪駅前第2ビル6階 JR北新地駅真上

☆ 講師 ☆
小野寺 美厚さん
NPO法人ネットワークオレンジ代表理事

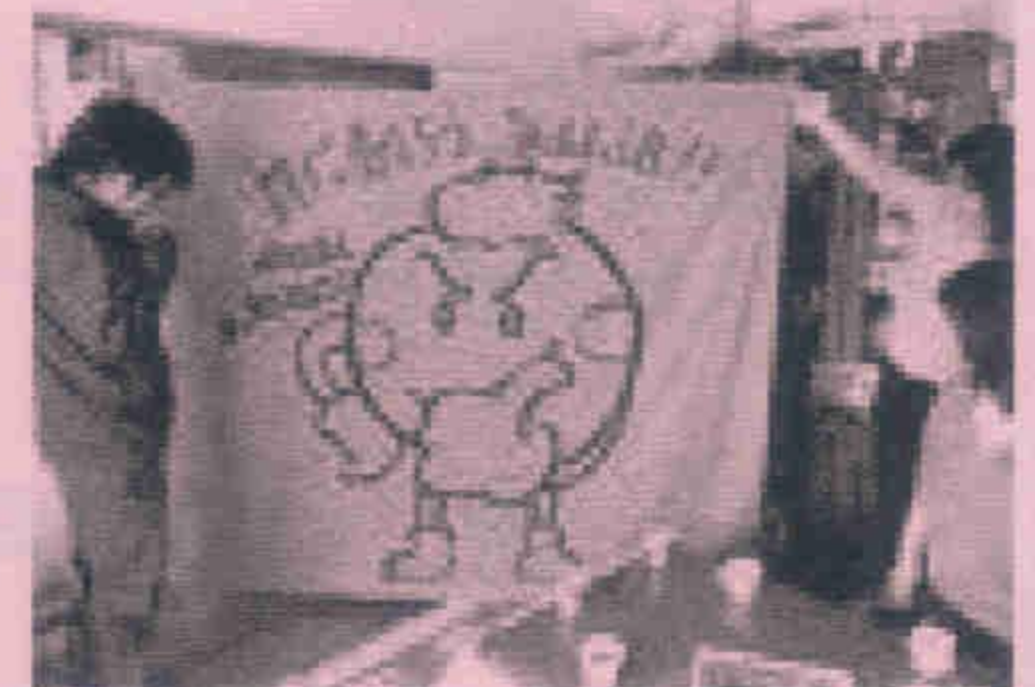
☆ 司会 ☆
柏木 宏
大阪市立大学大学院教授

参加無料
予約不要
どなたでも、ご参加いただけます

ネットワークオレンジとは？

障がい児者の向上心、好奇心を育てながら、地域の中で安心して生活できる環境を作る中で障がい児者の社会参加支援、生活支援、就労支援システムを確立し、その活躍の場を地域の中に置き、活動の幅を広げることで障がい児者に対する理解を求めるとともに、地域の社会資源を有効活用し「地域の活性化」に寄与することを目的として2008年に宮城県気仙沼で法人化されたNPO。東日本大震災では、活動拠点だった二つの施設が津波で被災。代表理事の小野寺さんの自宅で震災から12日後の3月23日、障害のある子ども向けのデイサービスと、18歳以上を対象にした就労体験事業を再開した。

小野寺さんの18歳になる双子の息子さんは、ともに重い知的障害と身体障害がある。「自分がいなくなっても、この子たちが安心して暮らせる地域をつくりたい」という気持ちから普通の主婦だった8年前に一念発起。手作りアクセサリーをフリーマーケットで売って資金をため、市中心部の空き店舗で障害者が働く駄菓子屋を始めた。商店街の催しに参加して地域に解け込み、2006年に児童デイサービスと就労体験事業を開始。震災後は、震災に負けない気仙沼づくりに向け、まちづくりの担い手を育てながら仕事を作る地域創生塾、気仙沼みらい創造塾を設立し、6月にはコミュニティカフェをスタートさせるなど活動を進めている。



お問い合わせ

NPOをツールに共生社会の実現を目指す社会人向け大学院……
大阪市立大学大学院創造都市研究科都市共生社会研究分野
URL: <http://www.co-existing.com> E-mail: info@co-existing.com

